

校長あいさつ

昭和33年2月、西彼杵郡矢上村、北高来郡古賀村、戸石村が合併し、東長崎町が誕生しました。その年の4月1日に矢上中学校、古賀中学校、戸石中学校の3中学校が統合して、「東長崎町立東長崎中学校」として本校は創立しました。その後、昭和38年に東長崎町と長崎市との合併により、「長崎市立東長崎中学校」となり現在に至っています。

この開校にあたり、制定された校歌は、「戸石の佳景 古賀文化 矢上の古事に 結ばれて」と歌われ、同じく校章は、「東」の文字の周りを学校を示す「文」の字を図案化した3つの輪で囲まれています。このような「東長崎中学校」の創立の経緯が今も伝えられています。

生徒数は、開校時（昭和33年）は867名でしたが、東長崎地区の人口の増加に伴い、昭和61年度には、1346名となりました。翌年の昭和62年度に戸石地区、かき道地区を校区とする橘中学校が新設されました。

現在の東長崎中学校は、長崎市内で最も生徒数の多い学校であるとともに、平成26年4月に校舎が新設され、平成27年9月には、新しいグラウンドが完成し、生徒数に対応した恵まれた教育環境が準備されています。

本校は、校訓の「自主」「親和」を基調に、「自主的に判断し、行動できるとともに、他者との関わりを大切にして協働できる生徒の育成」の学校教育目標の下、日々の魅力的な教育活動に努めています。

また、校訓や学校教育目標を具現化していくための学校スローガンを「東長崎 PRIDE」（ひがながプライド）～「自らに誇りと自信を持ち、率先して行動する」～ と定めています。

今後、変化が激しくなる世界においても、その変化に対応し活躍できる自主性と親和性をもった人材の育成に努めていきます。